

船舶事故調査報告書

平成26年11月27日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

| | |
|---|---|
| 事故種類 | 衝突（岸壁） |
| 発生日時 | 平成25年4月28日（日） 08時30分ごろ |
| 発生場所 | 福山港 広島県福山市所在のJFEスチール西日本福山製鉄所船舶信号所から真方位195°1,100m付近 （概位 北緯34°26.1′ 東経133°26.4′） |
| 事故調査の経過 | 平成25年5月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 | プレジャーボート こまくさ、5トン未満 273-10798広島、個人所有 5.76m(Lr)×1.96m×1.01m、FRP ガソリン機関（船外機）、51.50kW、平成12年7月 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長 男性 69歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成8年8月9日 免許証交付日 平成23年4月28日 （平成29年4月16日まで有効） |
| 死傷者等 | 軽傷 3人（船長及び同乗者2人） |
| 損傷 | 本船 右舷船首部に亀裂 岸壁 なし |
| 事故の経過 | 本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、福山港の係留地を離岸し、船長が右舷側の操縦区画に立って手動操舵に当たり、同乗者2人が左舷側の椅子に腰を掛け、約15ノットの対地速力で福山港分岐第1号灯浮標を通過した後、福山市仙酔島沖の釣り場に向けて右転を始めた。 船長は、右転を終えて福山港国際コンテナターミナルの岸壁（以下「本件岸壁」という。）に沿って南南西進を始めた頃、新たに購入した携帯電話を示して同乗者が話し掛けてきたので、左舷方を見ながら、同乗者と携帯電話の話をしていたところ、平成25年4月28日08時30分ごろ右舷船首部が本件岸壁に衝突した。 本船は自力航行して係留地に帰り、船長及び同乗者2人は、それぞれ |

| | |
|--|---|
| | れ顔面挫傷を負い、同乗者から連絡を受けた家族が手配した救急車で病院に搬送された。 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の初期 |
| その他の事項 | 船長は、本船には、本事故当時、舵及び機関等に故障はなかった ので、同乗者と携帯電話の話をしていた際、船首が右方に振れて本件岸壁に向かって航行したものと本事故後に思った。 船長及び同乗者2人は、本事故当時、いずれも救命胴衣を着用していなかった。 |
| 分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析 | あり なし なし 本船は、福山港を南南西進中、船長が、同乗者との会話に意識を向けていたことから、船首が右方に振れて本件岸壁に向かっていることに気付かずに航行し、本件岸壁に衝突したものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、本船が、福山港を南南西進中、船長が、同乗者との会話に意識を向けていたため、船首が右方に振れて本件岸壁に向かっていることに気付かずに航行し、本件岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。 |
| 参考 | 今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・航行中は、針路の確認を適切に行いながら操船に当たること。 |